

二枚貝及びノリの生産状況等について

水産庁

□有明海・八代海のアサリの状況

○稚貝の発生

有明海：平成30年の春生まれ群は、少なめ～やや良好で推移。秋生まれ群は、佐賀県及び長崎県では、やや良好～良好。

八代海：平成28年秋生まれ群、29年春生まれ群は良好であったが、29年秋生まれ群については少なめ。平成30年は分析中。

○漁獲量

有明海：28年、29年は増加し、聞き取りによると、30年も比較的高い水準になることが見込まれている。

八代海：29年、30年は増加。

○資源の状況

県	稚貝の発生状況								資源量
	H27年生まれ		H28年生まれ		H29年生まれ		H30年生まれ		
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
福岡県	大量	少なめ	良好	少なめ	良好	少なめ	少なめ	分析中	H30年3月の推定資源量は約1.2万トンでH26年(230トン)の約50倍
佐賀県	良好	やや良好	少なめ	少なめ	良好	やや良好	やや良好	良好	H31年1月の太良町地先での推定資源量は約150トン
長崎県	良好	やや良好	良好	少なめ	良好	少なめ	やや良好	やや良好	養殖主体のため調査せず
熊本県 (有明海)	やや良好	良好	良好	少なめ	やや良好	少なめ	やや少なめ	分析中	6月に生息量調査を実施
熊本県 (八代海)	少なめ	やや良好	少なめ	良好	良好	少なめ	分析中	-	-

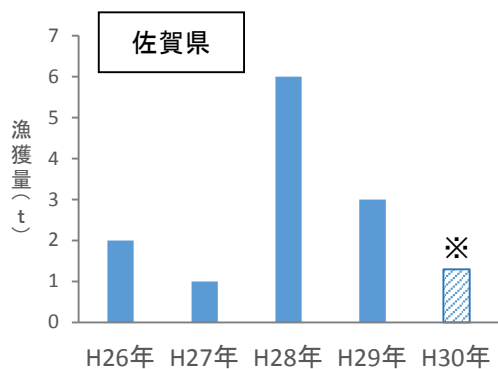
※各県からの聞き取り

○漁獲の状況

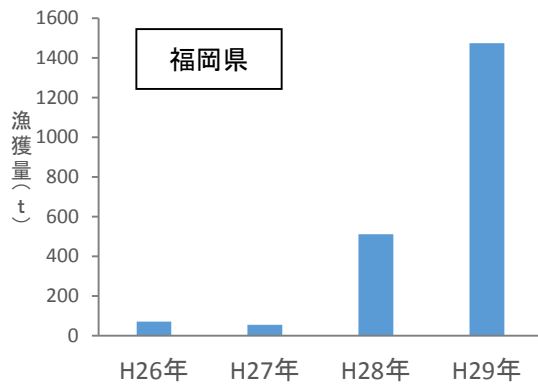
県	漁獲量(トン)					H31年の漁獲主体
	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	
福岡県	70	54	511	1,475	未確定	H28年春生まれ (出荷サイズ:30mm以上)
佐賀県	2	1	6 (うち太良町 5.1)	3 (うち太良町 2.2)	未確定 (太良町 1.3)	H28年春、秋生まれ、H29年春生まれ (出荷サイズ:30mm以上)
長崎県	261	186	152	159 (小長井、瑞穂 155)	未確定 (小長井、瑞穂 141)	養殖主体(出荷サイズ:平均35mm)
熊本県 (有明海)	158	149	284	640	435	H28年秋生まれ (出荷サイズ:28~30mm)
熊本県 (八代海)	26	21	3	15	56	H27年秋生まれ (出荷サイズ:28~30mm)

※福岡県、佐賀県、長崎県は農林水産統計(太良町、小長井、瑞穂及びH30年の数値は未公表のため、各県からの聞き取り)、熊本県は県調べ。

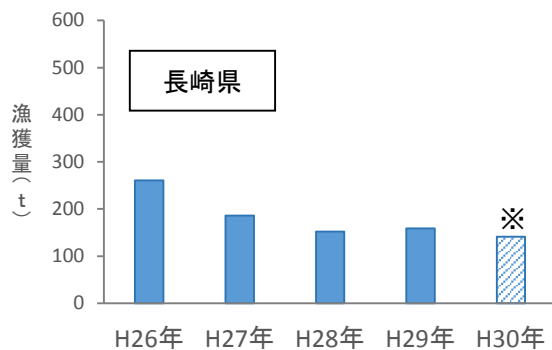
アサリ漁獲状況



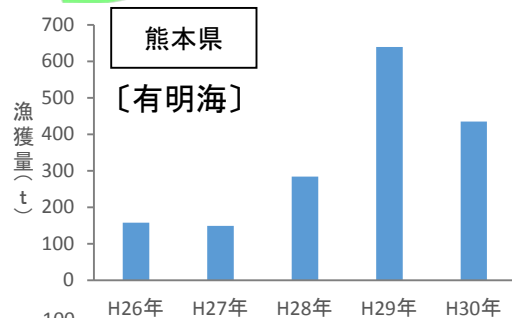
※一部地域のみの数値



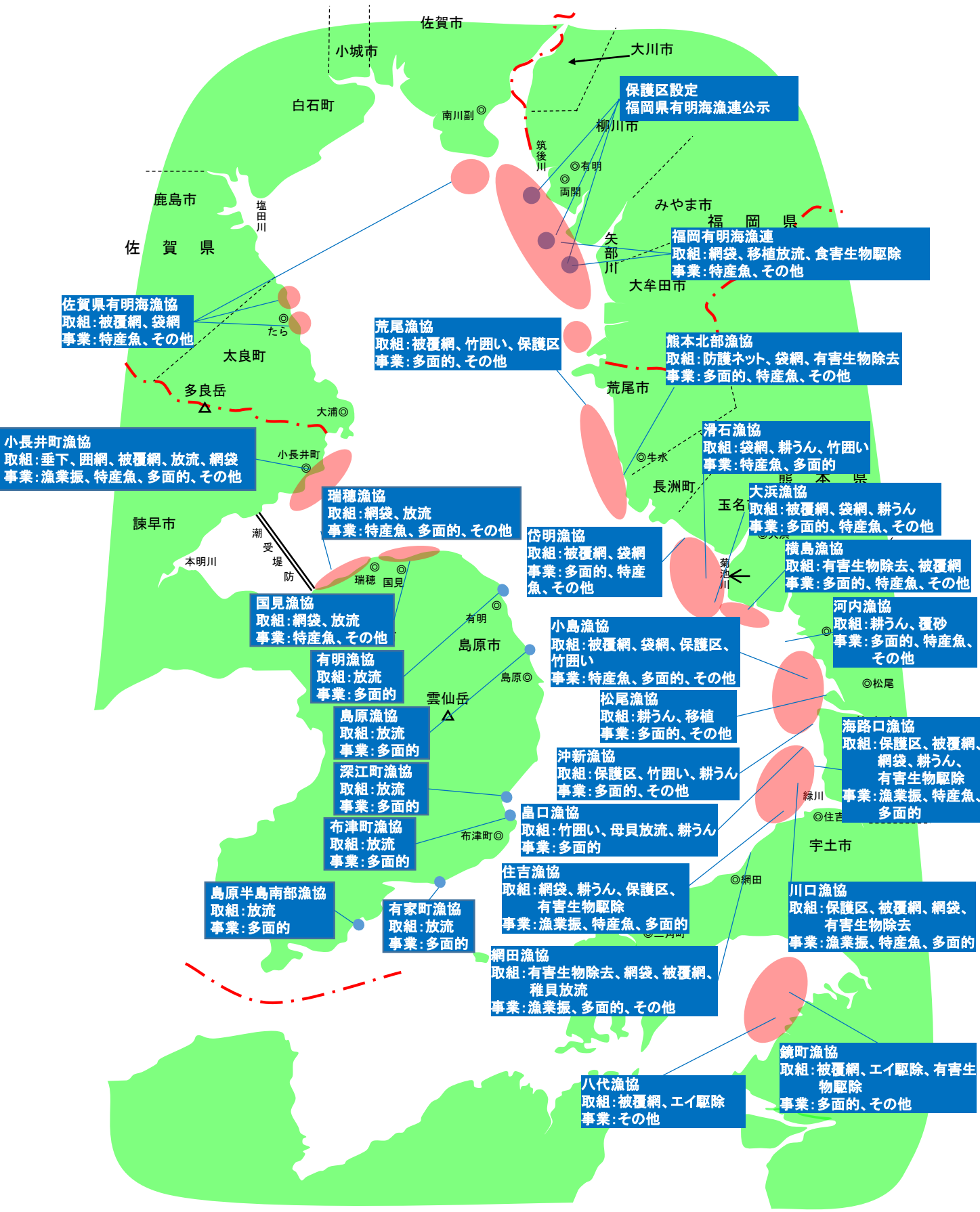
主要アサリ漁場



※一部地域のみの数値



アサリ着底箇所及び資源保護対策



● アサリ稚貝着底箇所

【事業】
 特産魚: 有明海特産魚介類生息環境調査委託事業
 漁業振: 有明海漁業振興技術開発事業
 多面的: 水産多面的機能発揮対策事業

タイラギ再生に向けての取組

- 近年、タイラギ資源が非常に少ないことから浮遊幼生量も少なく、資源の回復に向けては、①母貝の安定生産、②母貝団地造成により、浮遊幼生量を増大させて、再生産サイクルを回復させることが重要。
- 平成30年度から、4県共同で人工種苗を用いた母貝団地の造成に着手。

種苗生産

○平成25年度に種苗の量産に成功したが、生産の安定が課題。

〔種苗(着底稚貝)生産実績(H30年度)〕

(単位:千個)

	西海区 水産研究所	瀬戸内海区 水産研究所	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
着底稚貝(1mm)	0.8	454	4	0	0	—
稚貝(20mm)	—	—	10	11	9.6	23

着底稚貝等を提供

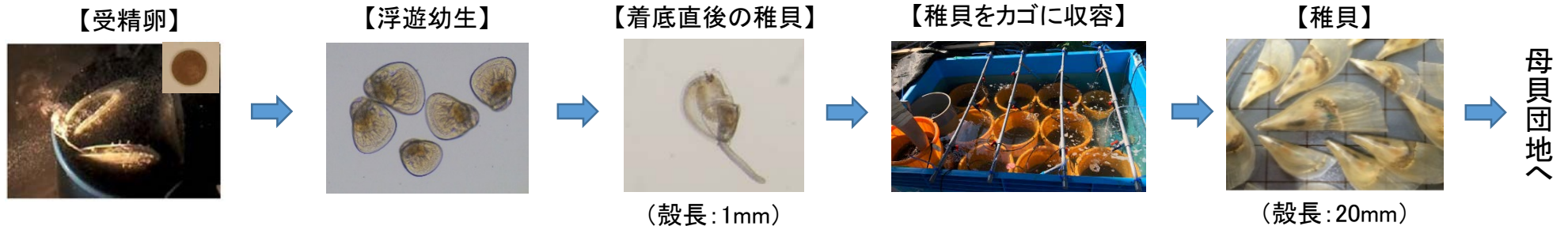
母貝団地の親貝へ

【種苗生産装置】



シャワー式飼育

(注)長崎県の稚貝は殻長30~50mmで計数。



母貝団地の造成

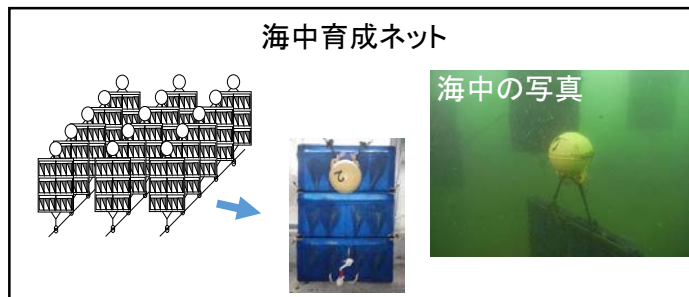
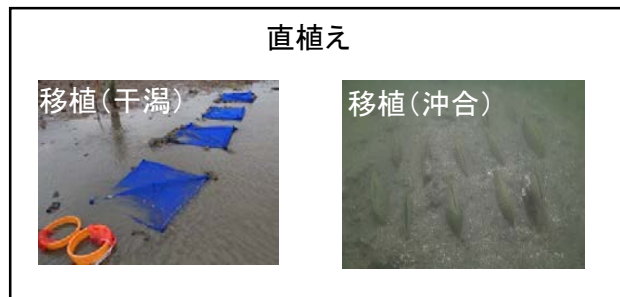
- 平成30年度に種苗生産した人工稚貝を母貝団地に17千個移植。
- このほか、佐賀県沖合に天然稚貝の発生域を確認し、昨年12月～本年1月に42千個を、4月に23千個を移植済み。

〔人工員による母貝団地の造成状況（R元年7月時点）〕

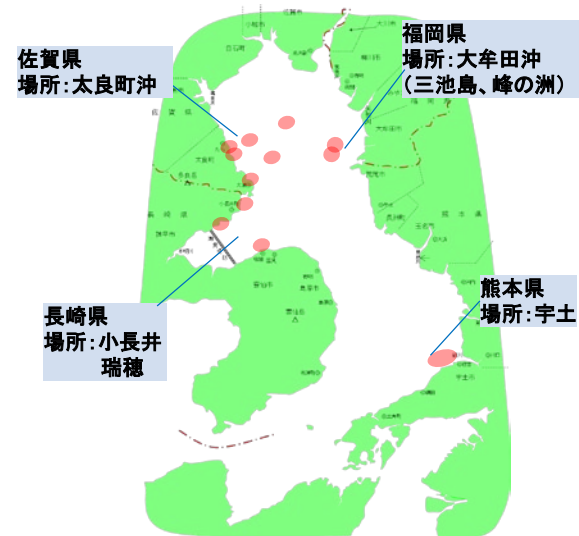
	海域	造成方式	29年度産貝による母貝団地		30年度産貝による母貝団地		
			生残数	殻長	移植数	生残数	殻長
福岡県	大牟田沖	海中育成ネット	320個	約160mm	2,300個	2,100個	約100mm
佐賀県 (注)	太良町沖	直植え	30個	約150mm	4,350個	4,350個	約110mm
長崎県	小長井	垂下直植え	250個	約150mm	2,650個	2,650個	約80mm
					育成中の稚貝約6,000個(約100mm)を8月以降移植予定		
熊本県	宇土	垂下	55個	約170mm	1,506個	1,506個	約110mm

(注)佐賀県はH31年3月時点

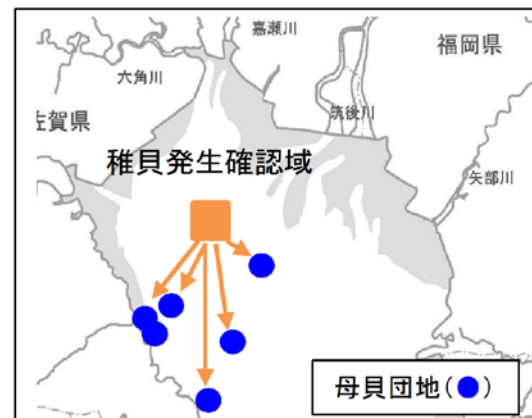
【母貝団地造成方式の例】



母貝団地造成箇所(人工員)



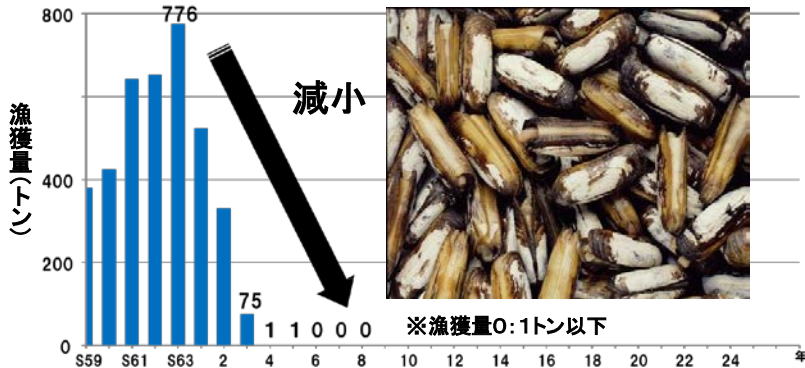
〔天然稚貝発生域及び移植箇所〕



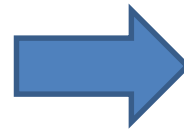
アゲマキの種苗放流・漁獲の現況

- 漁獲量が減少したアゲマキについては、佐賀県では平成8年から種苗生産の技術開発に着手。13年から放流技術開発に着手し、21年から佐賀県内19箇所に合わせて年間100万個規模、累計1,000万個以上の稚貝を放流し、母貝団地を造成。
- 27年以降、母貝団地の周辺に再生産したと思われる多くの稚貝を確認。
- 30年に一部漁場で漁を再開。
- 今年2月には、福岡県海域にも放流し、より広域な取組に。
- 今年の漁については、30年度冬季の少雨による高塩分化が原因とみられるへい死が見られ、見送り。なお、資源回復のため、高密度生息域からの移植を実施予定。

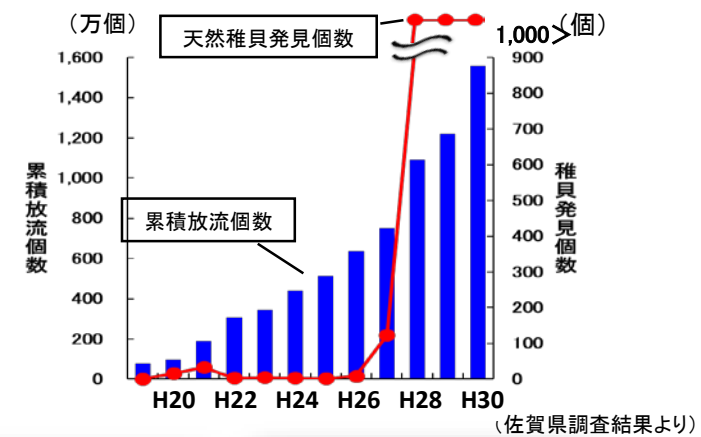
〔アゲマキの漁獲量の推移(佐賀県)〕



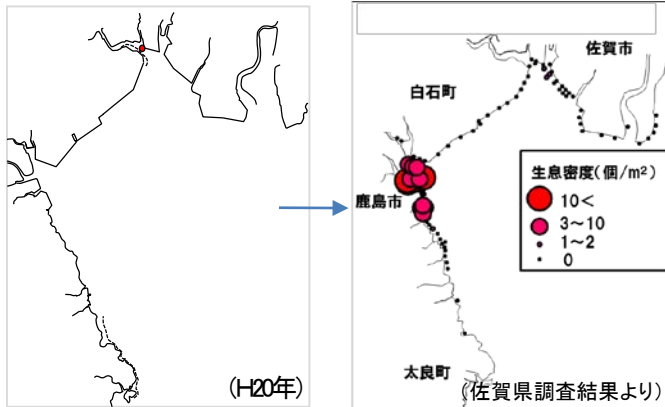
種苗放流の取組



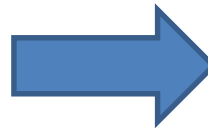
〔累積放流個数と天然稚貝発見個数〕



〔生息状況調査の結果(H30年2~3月)〕

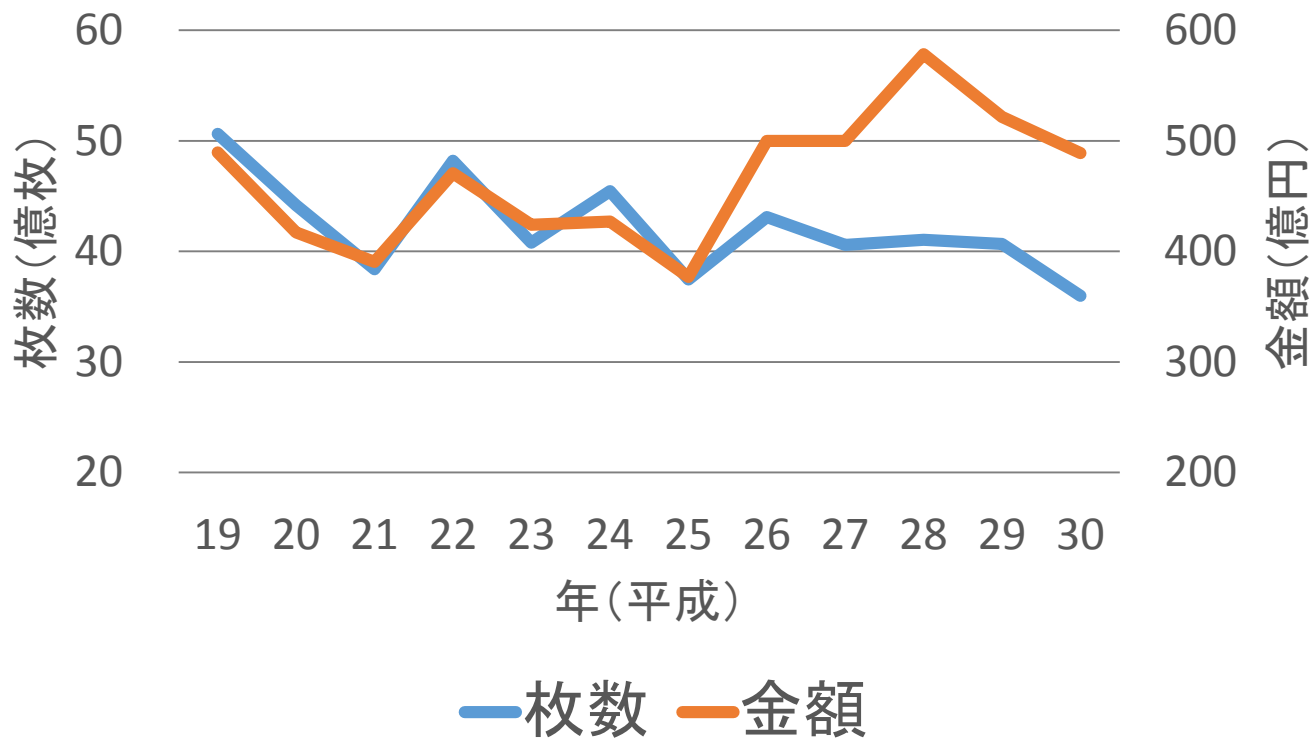


漁を再開



30年6月に一部の漁場で、22年ぶりとなるアゲマキ漁を再開。824kgを漁獲・出荷。

有明海におけるノリの生産量・金額の推移(4県合計)



※1. 全国漁連のり事業推進協議会の共販実績による。

2. 熊本県の実績値は、全漁連共販実績から八代海分を除き、全海苔連共販分を加えたもの。